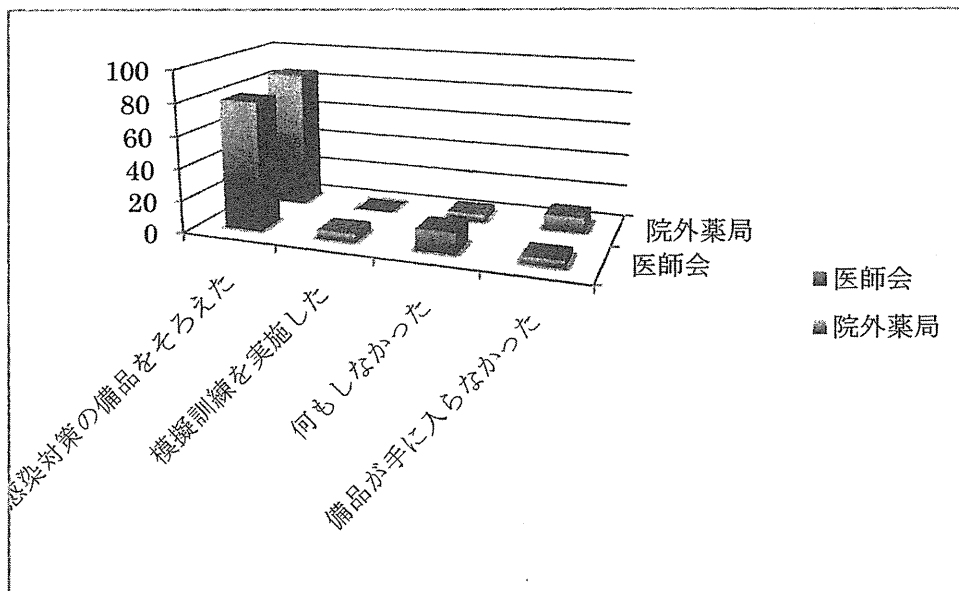
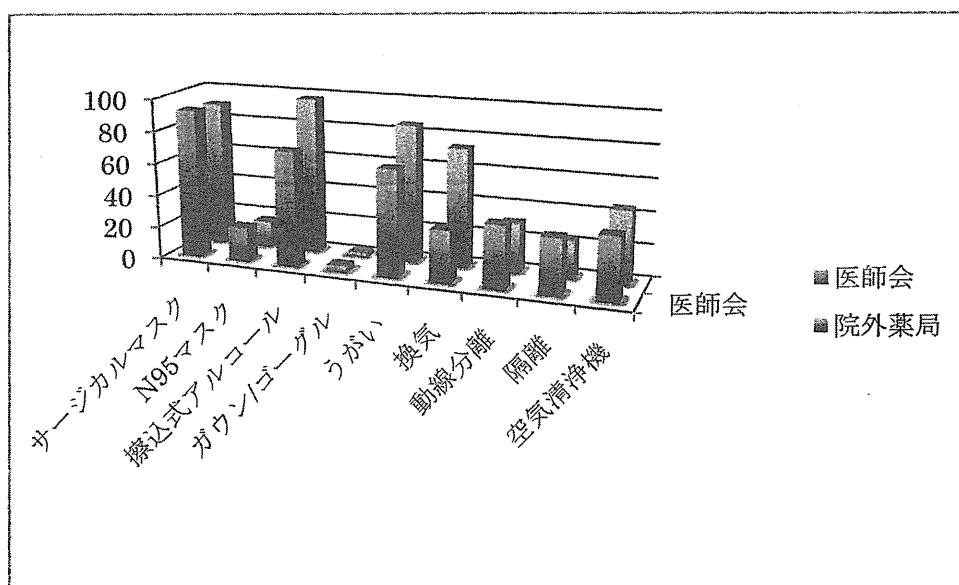


(図3) 2009/10年度の感染対策について (%)



(図4) 感染対策内容 (%)



新型インフルエンザに対する備えに関するアンケート

回答数 神戸市灘区医師会 A 会員 162 名中 92 名 (回収率 56.8%)

1. 先生の診療形態・診療科・職員の人数をお教えてください。

無床診療所 84 施設

職員の人数 6.3 ± 5.5 名 (1~21 名) (平均 \pm SD)

病院 (有床診療所を含む)

8 施設 (産科 4 施設、病院 3 施設、詳細不明 1 施設)

職員の人数 58.0 ± 53.4 名 (5~154 名)

診療科 内訳

内科 (循環器、消化器、呼吸器内科を含む) 35 施設、

整形外科 7 施設、

小児科 5 施設、

産科 5 施設、

眼科 5 施設、

心療内科 (精神科含む) 4 施設、

皮膚科 3 施設、

耳鼻科 3 施設、

外科 2 施設、

泌尿器科 2 施設、

形成外科 1 施設、

内科・外科 6 施設、

内科・小児科 5 施設、

内科・心療内科 1 施設、

内科・整形外科 1 施設、

外科・整形外科 1 施設、

老健嘱託医 1 名、

病院 2 施設、
回答なし 3 施設。

以下の当てはまるものに 1 つだけ○をお付けください。

2. 先生の年齢をお教えてください。

30 歳未満	0 名 (0%)
30～40 歳未満	0 名 (0%)
40～50 歳未満	14 名 (15.2%)、
50～60 歳未満	38 名 (41.3%)
60～70 歳未満	18 名 (19.6%)
70 歳以上	22 名 (23.9%)
計	92 名

3. 職員に院内感染と思われる二次感染はありましたか。

あった	2 名 (2.2%)
なかった	82 名 (92.1%)
答えられない	0 名 (0%)
わからない	5 名 (5.6%)
計	89 名

4. 職員に新型インフルエンザワクチンの注射はされましたでしょうか。

全員にした	63 名 (69%)
一部に任意でした	19 名 (20.9%)
全員にしなかった	9 名 (9.9%)
計	91 名

5. 上記 4 で職員にワクチンを施行されました施設はワクチン接種終了時期をお教えてください。

医療従事者接種期間内にできた	64 名 (81.0%)
それ以外	15 名 (19.0%)
計	79 名

	医師会(N=79名)	院外薬局(N=21名)
期間内(10月上旬)	64	10
10月中旬	1	
10月下旬	1	
11月上旬	3	2
11月下旬	1	
12月下旬	1	1
1月中旬		1
1月下旬	2	1
2月上旬		1
2月中旬	1	
2月下旬	1	3
4月下旬	1	
5月上旬	1	
一般人同様		2

以下の問いで該当するところに○をつけてください。

流行初期(5月16日)から想定してお答えください(複数回答可)。

6. 平成21年(昨年)度の新型インフルエンザの備えはどうでしたか?

感染対策の備品をそろえた	72名(80.0%)
模擬訓練を実施した	5名(5.6%)
何もしなかった	12名(13.3%)
備品をそろえたかったが手に入らなかった	4名(4.4%)
計	90名

その他

- ・積極的に勉強会に出席した
- ・マスク程度の備え
- ・サージカルマスクを備えた。従業員に1箱ずつ渡した
- ・発熱患者に対応すべく診察室をわけた。

7. 平成 21 年（昨年）度の感染対策は何をされましたか？

参考；5月16日神戸1例目発生、5月28日安心宣言、7月末再流行の兆し、
11月中旬流行ピーク、12月1日ワクチン開始、
22年3月末2度目の流行終息、8月11日WHOポストパンデミック宣言
(全期間とは、5月16日から22年8月11日まで)

常時サージカルマスクを使用した。72名(78.3%)

医師 58名(80.6%) 看護師 41名(56.9%) 薬剤師 11名(15.3%)

受付事務 56名(77.8%) 発熱患者 35名(48.6%)

時期は(初期2週間のみ 13名(25.5%)、2度目の流行終息まで 32名
(60.4%)、全期間 5名(9.4%)、現在も 3名(5.7%) 計53名)

発熱患者の来た時だけサージカルマスクを使用した。33名(35.9%)

医師 26名(78.8%) 看護師 15名(45.5%) 薬剤師 0名(0%)

受付事務 25名(75.8%) 発熱患者 15名(45.5%)

時期は(初期2週間のみ 2名(11.8%)、2度目の流行終息まで 7名
(14.3%)、全期間 4名(23.5%)、現在も 4名(23.5%) 計17名)

常時N95マスクを使用した。7名(7.6%)

医師 6名(85.7%) 看護師 2名(28.6%) 薬剤師 0名(0%)

受付事務 4名(57.1%) 発熱患者 2名(28.6%)

時期は(初期2週間のみ 1名(25%)、2度目の流行終息まで 2名(50%)、
全期間 1名(25%)、現在も 0名(0%) 計4名)

発熱患者の来た時だけN95マスクを使用した。13名(14.1%)

医師 11名(84.6%) 看護師 2名(15.4%) 薬剤師 0名(0%)

受付事務 3名(23.1%) 発熱患者 3名(23.1%)

時期は(初期2週間のみ 3名(60%)、2度目の流行終息まで 2名
(40%)、全期間 0名(0%)、現在も 0名(0%) 計5名)

発熱患者と接した時に擦込式アルコール消毒を使用した。66名 (71.7%)

医師 64名 (97.0%) 看護師 41名 (62.1%) 薬剤師 7名 (10.6%)

受付事務 50名 (75.8%) 発熱患者 14名 (21.2%)

時期は (初期2週間のみ 3名 (7.1%)、2度目の流行終息まで 20名 (47.6%)、全期間 7名 (16.7%)、現在も 12名 (28.6%) 計 42名)

発熱患者と接する時に個人防御策としてガウンやゴーグルも使用した。

4名 (4.3%)

医師 4名 (100%) 看護師 2名 (50%) 薬剤師 1名 (25%)

受付事務 0名 (0%) 発熱患者 0名 (0%)

時期は (初期2週間のみ 2名 (50%)、2度目の流行終息まで 2名 (50%)、全期間 0名 (0%)、現在も 0名 (0%) 計 4名)

常時 休憩時間にうがいをした。 43名 (46.7%)

医師 38名 (88.4%) 看護師 26名 (60.5%) 薬剤師 7名 (16.2%)

受付事務 36名 (83.7%) 発熱患者 2名 (4.7%)

時期は (初期2週間のみ 2名 (8%)、2度目の流行終息まで 9名 (36%)、全期間 3名 (12%)、現在も 11名 (44%) 計 25名)

発熱患者が来た時だけうがいをした。 18名 (19.6%)

医師 15名 (83.3%) 看護師 9名 (50%) 薬剤師 1名 (5.6%)

受付事務 14名 (77.8%) 発熱患者 1名 (5.6%)

時期は (初期2週間のみ 1名 (14.3%)、2度目の流行終息まで 3名 (42.9%)、全期間 2名 (28.6%)、現在も 1名 (14.3%) 計 7名)

発熱患者が来た時に換気をした。 30名 (32.6%)

時期は (初期2週間のみ 9名 (30%)、2度目の流行終息まで 4名 (13.3%)、全期間 9名 (30%)、現在も 8名 (26.7%) 計 30名)

インフルエンザ患者の診察時間帯や動線を通常患者と分離した。

36名 (39.1%)

時期は (初期2週間のみ 7名 (19.4%)、2度目の流行終息まで 16名 (44.4%)、全期間 7名 (19.4%)、現在も 4名 (11.1%) 計36名)

インフルエンザ患者を隔離した。 32名 (34.8%)

時期は (初期2週間のみ 3名 (9.4%)、2度目の流行終息まで 7名 (21.9%)、全期間 9名 (28.1%)、現在も 12名 (37.5%) 計32名)

空気清浄機を導入した。 36名 (39.1%)

時期は (初期2週間のみ 1名 (2.8%)、2度目の流行終息まで 2名 (5.6%)、全期間 2名 (5.6%)、現在も 30名 (83.3%) 計36名)

その他したこと

H21年10月開院のためマスクを含め何も行えず手荒い励行のみ

常にアルコール、マスク、ガウンを準備した

患者さんが待合室に多数おられる状況を無くすように努力した。

手洗い、うがい

調剤薬局に前もってインフルエンザ(の疑いの強い)患者が行くことを知らせ、薬局内に入
れず、薬局の外で薬の受け渡しや説明をしてもらった。

電話にて来院時間を指定して対処していた

8. 昨年の経験をふまえた今年のインフルエンザ対策についてお聞きします。

特に変化なく例年並に行う	54名 (58.7%)
昨年同様の準備を行う	37名 (40.2%)
サージカルマスクを昨年より多く準備する	12名 (13.0%)
N95マスクを昨年より多く準備する	1名 (1.1%)
迅速診断キットを昨年より多く準備する	12名 (13.0%)
擦込式アルコール消毒薬を昨年より多く準備する	11名 (12.0%)
ゴーグル・ガウンなどを昨年より多く準備する	0名 (0%)

隔離室や衝立（ついで）など動線の確保を昨年以上に準備する	5名（5.4%）
職員全員にインフルエンザワクチンの注射を行う	58名（63.0%）
上記をふまえ模擬訓練を行う	4名（4.3%）
	計 92名

9. 今年の新型インフルエンザの流行予測につきお聞きします。
（どれか1つに○をつけてください）

今年の新型インフルエンザの流行は昨年より

小さい	26名（29.2%）
昨年と同じ	11名（12.4%）
大きい	0名（0%）
季節性流行時の例年並に戻る	20名（22.5%）
予測できない	32名（36.0%）
	計 89名

10. 今年の新型インフルエンザの経験をふまえ、苦労したこと、国・地方自治体・保健所・医師会などへのご意見、その他お気づきの点などがございましたらご自由にお書きください。

- ・インフルエンザいがいの発熱や肺炎患者さんの受け入れ病院が少なく困ることがあった。
- ・マスコミに惑わされることなく、周囲の情勢をしっかりとつかみ的確に判断、治療を実施する
- ・疑いの時点でタミフル使用
- ・ワクチンの供給を含めてすべてが大げさなようで不便を感じた。
- ・1例目の発症公式発表が輪番当直日で有り対応に苦慮した。引き続いての流行初期における対応についてはマスコミ等の発表に過敏に反応された患者さんが受診された。頻回に臨時の感染対策会議を開き、院内感染予防については何とか対応できたと考えますが、予防に必要な物品の供給が十分でなく困った。厚労省、自治体一本化での感染対策の具体的な

指針とマスコミを活用した正確な情報の提供。対策、情報が不明瞭で医療側、一般共に混乱を招いた。

・ワクチン供給に時間がかかり、且つ、手続きがややこしくおまけに返品負荷というお粗末さで在庫を抱えるゆとりがなく接種を断る例がかなりでた。

・マスクの購入、ワクチンの確保

・早めの対応をお願いします。

・新型のワクチンがなかなか手に入らなかった

・1. 必要なワクチン確保が始めのころできなかつた。2. また意味のない事務作業(ワクチンの在庫数や実施数報告など)がありこれに大きな負担を強いられた。

・過剰な反応は慎みたい

・発熱患者は内科等に紹介していたのでほとんど診察していない。

・予防目的ならば初期に十分量のワクチン供給をするべきだ。昨年のように小出しでは無意味。在庫の山となると思われる。

・流行が同じ程度と仮定しても、一般診療所への受診者数は昨年よりもずっと多くなるのではないか

・1. 保健所の指導で休業にしたのに、まだ保険金がでない。2. 新型インフルエンザに対して通常の休業保険が無効であること。3. 国の新型インフルエンザ情報の公開が遅く、また、マスコミも明らかに間違った報道をしてなんら反省や検証をしていない。

・H5N1 の流行を一番に心配している

・1. 初期の確定診断に時間がかかった。2. 話によれば、PCR 検査、行政の施行が遅れたのに問題あり、流行が拡大したのは行政に問題が有りと考える。

・明らかにインフルエンザと思われる患者で検査キットでの判定はマイナスと出ることが多くあり、判断に迷った。

ご協力ありがとうございました。

新型インフルエンザに対する備えに関するアンケート

回答数 灘区院外薬局 72名中 42名 (回収率 58.3%)

1. 職員の数をお答えください。

7 ± 3.2名 (2 ~ 15名) 平均 ± SD / 計 42施設

2. 1日に来られる患者さんの平均人数をお教えてください。

186.7 ± 151.6名 (20 ~ 1000名) 平均 ± SD / 計 42施設

62 ± 39.4名 (20 ~ 200名) / 計 41施設 (1000名の施設除外)

昨年 21 年度について、以下の問いに対して、当てはまるものに 1 つだけ ○ をお付けください。

3. 昨年 21 年度のインフルエンザ流行期において 1 日最大何名のインフルエンザ様疾患 (抗インフルエンザ薬が処方された方) の患者が来られましたか。

10 人未満	34 施設 (82.9%)
10 ~ 20 人未満	3 施設 (7.3%)
20 ~ 30 人未満	2 施設 (4.9%)
30 ~ 40 人未満	0 施設 (0%)
40 ~ 50 人未満	2 施設 (4.9%)
50 人以上	0 施設 (0%)
	計 41 施設

4. インフルエンザ様疾患の患者が来局された際、医療機関から何かしらの事前連絡はございましたか？

あった	18 施設 (42.9%)
なかった	24 施設 (54.8%)
FAX 処方に対しこちらから電話した	0 施設 (0%)
有ったり無かったり	2 施設 (4.8%)
	計 42 施設

5. 薬局内ではと思われる職員への2次感染はありましたか。

あった	3施設 (7.5%)
なかった	35施設 (81.5%)
答えられない	0施設 (0%)
わからない	2施設 (5.0%)
計 40 施設	

6. 職員に新型インフルエンザワクチンの注射はされましたでしょうか。

全員にした	10施設 (23.8%)
一部に任意でした	14施設 (33.3%)
全員にしなかった	18施設 (42.9%)
計 42 施設	

7. 上記6で職員にワクチンを施行されました施設はワクチン接種終了時期をお教えてください。

医療従事者接種期間内にできた	10施設 (47.6%)
それ以外	11施設 (52.4%)
計 21 施設	

	医師会(N=79名)	院外薬局(N=21名)
期間内(10月上旬)	64	10
10月中旬	1	
10月下旬	1	
11月上旬	3	2
11月下旬	1	
12月下旬	1	1
1月中旬		1
1月下旬	2	1
2月上旬		1
2月中旬	1	
2月下旬	1	3
4月下旬	1	
5月上旬	1	
一般人同様		2

以下の問いで該当するところに○をつけてください。

流行初期(5月16日)から想定してお答えください(複数回答可)。

8. 平成21年度の新型インフルエンザの備えはどうでしたか?

感染対策の備品をそろえた 36施設(85.7%)

模擬訓練を実施した 0施設(0%)

何もしなかった 2施設(4.8%)

備品はそろえたかったが手に入らなかった
4施設(9.5%)

計 42施設

9. 平成 21 年（昨年）度の感染対策は何をされましたか？

（されていない箇所は空欄で結構です。）

参考;5月16日神戸1例目発生、5月28日安心宣言、7月末再流行の兆し、
11月中旬流行ピーク、12月1日ワクチン開始、
22年3月末2度目の流行終息、8月11日WHOポストパンデミック宣言
（全期間とは、5月16日から22年8月11日まで）

サージカルマスクを使用した。 計 38 施設 (90.5%)

常時 30 施設 (78.9%)

患者の来た時だけ 5 施設 (13.2%)

患者に対応する時だけ 3 施設 (7.9%)

時期は

初期2週間のみ 5 施設 (17.2%)

2度目の流行終息まで 15 施設 (51.7%)

全期間 8 施設 (27.6%)

現在も 1 施設 (3.4%)

計 29 施設

N95 マスクを使用した。 計 7 施設 (16.7%)

常時 0 施設 (0%)

患者の来た時だけ 3 施設 (42.9%)

患者に対応する時だけ 4 施設 (57.1%)

時期は

初期2週間のみ 0 施設 (0%)

2度目の流行終息まで 3 施設 (100%)

全期間 0 施設 (0%)

現在も 0 施設 (0%)

計 3 施設

擦込式アルコール消毒を使用した。 計 41 施設 (97.6%)
 常時 28 施設 (68.3%)
 患者の来た時だけ 8 施設 (19.5%)
 患者に対応する時だけ 5 施設 (12.2%)

時期は

初期 2 週間のみ 0 施設 (0%)
 2 度目の流行終息まで 9 施設 (36%)
 全期間 6 施設 (24%)
 現在も 10 施設 (40%)

計 25 施設

個人防御策としてガウンやゴーグルも使用した。 計 1 施設 (2.4%)

常時 0 施設 (0%)
 患者の来た時だけ 1 施設 (10.0%)
 患者に対応する時だけ 0 施設 (0%)

時期は

初期 2 週間のみ 0 施設 (0%)
 2 度目の流行終息まで 1 施設 (100%)
 全期間 0 施設 (0%)
 現在も 0 施設 (0%)

計 1 施設

休憩時間にうがいをした。 計 36 施設 (85.7%)

常時 19 施設 (52.8%)
 患者の来た時だけ 12 施設 (33.3%)
 患者に対応する時だけ 5 施設 (13.9%)

時期は

初期 2 週間のみ 0 施設 (0%)
 2 度目の流行終息まで 10 施設 (45.5%)

全期間	9 施設 (40.9%)
現在も	3 施設 (13.6%)
計	22 施設

換気をした。 計 31 施設 (73.8%)

常時	19 施設 (61.3%)
患者の来た時だけ	9 施設 (29.0%)
患者に対応する時だけ	3 施設 (9.7%)

時期は

初期 2 週間のみ	0 施設 (0%)
2 度目の流行終息まで	5 施設 (29.4%)
全期間	5 施設 (29.4%)
現在も	7 施設 (41.2%)

計 17 施設

インフルエンザ患者の来局時間帯や動線を通常患者とわけた。

計 13 施設 (31.0%)

時期は

初期 2 週間のみ	3 施設 (23.1%)
2 度目の流行終息まで	5 施設 (38.5%)
全期間	3 施設 (23.1%)
現在も	2 施設 (15.4%)

計 13 施設

インフルエンザ患者を隔離した。 計 10 施設 (23.8%)

時期は

初期 2 週間のみ	3 施設 (30%)
2 度目の流行終息まで	2 施設 (20%)
全期間	3 施設 (30%)
現在も	2 施設 (20%)

計 10 施設

空気清浄機を導入した。	計 19 施設 (45.2%)
時期は	
初期 2 週間のみ	0 施設 (0%)
2 度目の流行終息まで	0 施設 (0%)
全期間	2 施設 (10.5%)
現在も	16 施設 (84.2%)
	計 19 施設

その他したこと

患者の触れた個所(ドアノブやカウンターなど)のアルコール消毒	全期間
初期を除きインフルエンザ患者を医院隔離室に出張投薬することにした	現在も
インフルエンザにかかわらず咳患者でマスクをしていない患者ににマスクを渡して装着してもらった	現在も
日曜当番の時に薬局のため普通に投薬した	
仕切り付きの投薬カウンターを設置しそのカウンターでインフルエンザ患者に投薬した	全期間
殺菌消毒剤にてドアノブ、イスなどの消毒	現在も
クレベリン設置	
トイレのタオルを外した。	現在も
各自にリレンザ or タミフルを配布	

時期は (初期 2 週間のみ、2 度目の流行終息まで、全期間、現在も)

10. 昨年の経験をふまえた今年のインフルエンザ対策についてお聞きします。

特に変化なく例年並に行う	16 施設 (38.1%)
昨年同様の準備を行う	24 施設 (57.1%)
サージカルマスクを昨年より多く準備する	5 施設 (11.9%)
N95 マスクを昨年より多く準備する	2 施設 (4.8%)
ゴーグル・ガウンなどを昨年より多く準備する	0 施設 (0%)
擦込式アルコール消毒薬を昨年より多く準備する	6 施設 (14.3%)
隔離室や衝立 (ついたて) など動線の確保を昨年以上に準備する	

	0 施設 (0%)
職員全員にインフルエンザのワクチン注射を行う	8 施設 (19.0%)
上記をふまえ模擬訓練を行う	1 施設 (2.4%)
	計 42 施設

その他

- ・ さらに強毒性の者が流行する兆しがあれば今まで通りでは対応できないので考えなければならない。
- ・ 任意で職員にインフルエンザワクチン注射を行う

11. 昨年度は医師の間からも情報不足が問題視されておりますが、新型インフルエンザに対する情報はどこから入手しましたか。

薬剤師会から	32 施設 (76.2%)
自社から	4 施設 (9.5%)
医師会やインフルエンザ連絡協議会の広報から	12 施設 (28.6%)
国や地方自治体の広報から	11 施設 (26.2%)
インターネットで自分で探した	16 施設 (38.1%)
TVや新聞などのメディアから	23 施設 (54.8%)、
特に気にせず例年どおりにしていた	0 施設 (0%)
	計 42 施設

その他

- 薬卸しさんから
- 薬の流通状況や患者の動向は問屋からよく聞いた。
- MRさんから
- 中央市民病院のHP,医師の公演を聴きに行った。
- 卸から
- MRから
- 講演会

12. 今年の新型インフルエンザの流行予測につきお聞きします。

(どれか1つに○をつけてください。)

今年の新型インフルエンザの流行は昨年より

小さい	6施設 (14.3%)
昨年と同じ	2施設 (4.8%)
大きい	1施設 (2.4%)
季節性流行時の例年並に戻る	8施設 (19.0%)
予測できない	24施設 (57.1%)
計	42施設

13. 昨年の新型インフルエンザの経験をふまえ、苦勞したこと、国・地方自治体・保健所・医師会などへのご意見、その他お気づきの点などございましたら自由にお書きください。

- ・ 抗インフルエンザ薬の不足の問題。今後、新型インフルエンザが強毒性になった場合の対応の明瞭下
- ・ 調剤薬局スタッフは医療従事者に入らないことは心外だった。薬局スタッフも季節初期にワクチン接種が可能にして欲しい。新型インフルエンザは、結局、季節性と替わらない程度だったので良かったもののこれから未知の新しい病気が流行した時に町の診療所と調剤薬局は同等に扱って欲しい。
- ・ 町の薬局店薬剤師・従業員はワクチン接種の優先順位に入らず落胆であった。危険と感じた時、予防でタミフル服用するタイミング、期間(1シーズンに何回くらい可能か?など)何か指針があれば知りたいです。
- ・ タミフル、リレンザの品不足の情報に煽られ手持ち在庫を多くしすぎた
- ・ 薬剤師も医療従事者の枠に入れるべき
- ・ 患者自身の新型インフルエンザに対する認識の甘さを感じた。り患が増えるにつれて普通の風邪と同じようにとらえているのか、マスクなどの咳エチケットの低下が気になった。自治体にも啓蒙をお願いしたい。
- ・ 薬剤師にもワクチンを
- ・ 情報や対応を早めに
- ・ 患者は薬剤師も医療従事者として見ているのに、薬剤師に対してインフルエンザワクチンの接種が一般の方と同じというのは納得いかない。

- ・ワクチンが余ったとのことで行政にその対応を早くしてほしかった。

ご協力ありがとうございました。

パートⅡ－(5)
看護部門の視点

研究分担者 星野恵美子